

自由貿易体制の漸進的確立に

関する意見

(二二・一一・六 関西経済同友会)

第二次世界大戦後の顕著な特徴は再び戦争を繰返さないような世界政治機構、世界経済機構を樹立しようとする試みである。即ち今次大戦を誘発した国際上の行詰りは政治目的によって歪められた経済統制とその必然の結果として生じた経済「ブロック」の対立に外ならないと考え、国際政治、国際経済の面から一切のこれ等アウタルキー的性格を払拭しようとする各国の努力である。わが国の産業再建対策を樹立するに当っても、この国際間の動向と国際政治経済情勢の支配下にあつてその政策に自由性なきわが国の実情とを十分認識し、民族経済体制の樹立というが如きアウタルキー的統制主義や、経済外的な圧力によって産業構造自体が歪められたりすることは厳に避くべきものと考ええる。

さきにわれわれは傾斜生産方式がまだその緒に就いたばかりの頃、その根底に民族経済的な考え方が潜在する限り、わが国産業再建の目的達成は困難であろうと考え、外資導入に関する意見書を發表して識者の参考に供したのであるが、今回貿易再開を機にこれに伴うわが国産業のあり方に就ての希望を開陳する次第である。

一、傾斜生産方式における傾斜の頂点を基礎産業と並んで輸出産業へ指向すべきこと。

鉄鋼、石炭等の所謂基礎産業を他のすべての産業の犠牲において振興することによって漸次拡大再生産の方向に向わんとする方針は好むと好

まざるとに拘らず、修正すべき時期にきたものと思料する。

すなわち重点は基礎産業と並んで従来最も閉却されていた雑品工業、輸出工業等にも指向せらるべきであつて、国際市場で最大の価値を実現する産業に労働力、資材を優先的に投入することが国際経済との繋においてわが国産業を再建する方途であると思料する。

二、貿易再開により一部門戸を開放した以上これを全開放の方向に指向し自由貿易体制の漸進的確立を目ざすこと。

計画経済は厳格な統制機構の上に立たざる限りその成功は期し得られない。既に貿易の門戸が開かれた以上国際経済との接触面でその統制維持が著しく困難となる。従而世界の政治経済情勢を背景として、国内産業は必然的に国際経済に相応して切換えられ貿易自由主義体制を基調とした全開放の方向に向わざるを得ないと思料する。

三、国際商品価格に対応できるように国内企業の経営を合理化し、生産費の低減を図ること。

戦時中わが国の技術水準は特別のものを除き殆んど向上の跡は見られない。鎖国政策のために世界的商品感覚は喪失し、原価計算主義による公定価格制と闇生産並に労働攻勢のため経営は放漫に流れている。一言に言えば国際的には売れない商品と売れない価格とが国内生産を支配している。すなわち国際市場における競争に耐え得るためには企業の徹底的な合理化は必至である。

四、為替レートの決定を早急に行い、出来得る限り各商品別のレートを選別、一本建レートとすること。

国内需給から割出された統制価格を基準にし、これを個別的に国際価格に結び付ける処置として各商品別の為替レートが決定せられ、これは

貿易再開に伴う国内産業の混乱をある程度防止し得る利便があるが、その反面輸出入取引が国内闇価格の変動によって絶えず乱され貿易の機動性が著しく阻害せられることになる。

依而為替レートは一本建とし現実に国際市場に適用する為替レートを先づ決定し、これによって国内価格を調整し国内価格を漸次国際価格水準に近づけることが貿易政策の眼目であると思料する。

五、貿易回転基金の運用は十分民主化せられた機構により、経済原則に従って行われるべきこと。

貿易回転基金の運用は運用委員会が設置せられてこれに当るものと予想せられるが、これを貿易業務担当者の参加した民主的なものたらしめ、かつ煩鎖なる手続主義、形式主義を廃し、貿易の実情に即して十分、機動性を發揮し得るような措置を希望する。なお資金、資材の配給機関として官庁類似の金庫、営団等を設置するのはいわゆる統制主義の弊に墮する惧あるによりこの際差控えられんことを希望する。

以上の意見には国際経済主義自由貿易方式の考え方がその根底になっている。政治的には憲法上戦争放棄を宣言した当然の結果として、経済的には資源の貧弱なわが国は賃加工、海運、中継貿易その他いわゆるサービス等の技術労働の輸出に依存しなければならぬ当然の帰結として自由貿易体制への前進は必然的である。しかしながらこの過渡期において経済上の出血と社会的な混乱は当然予想せられる。先ず基礎の貧弱な産業やどうしても国際価格水準では引合わない企業は崩壊する。次に企業整理と経営合理化から大量の失業者が発生する。第三には資本の海外逃避が行われる。

六、以上の出血、混乱を多少でも防止するために輸出入統制は止むを得ない。而してこれが対策としては貿易回転基金と並んで相当長期な産業再建のためのクレジットの設立を是非共実現する必要がある。

しかしながら出血、混乱を顧慮するのあまり、姑息な手段によって無理にこれを押えようとすれば、指一本で済むところを片腕、片腕で済むところを両腕を切らねばならぬような結果となり、結局わが国全産業の後進性に拍車をかけ永久の貧乏国懶惰民族となることをわれわれは憂うものである。

統制の漸進的撤廃に関する決議

(二三・七・一〇)

第1回関西経済同友会大会決議 於宝塚)

凡そ経済施策は消費大衆に安価良質の商品を豊富に提供し、その生活上に資することを目的とするものでなければならぬ。しかるに現在の劃一的、機械的統制下においては大衆が価格の合理的決定に比較的無智、無関心なる現状よりして消費者の立場が無視せられる。時にはこれが生産業者側の利益確保の手段に利用される傾向さえも窺取される。若し公定価格が更に大幅に引上げられるようになれば、生産の合理化が想定されない限りは価格の上昇による購買力の減退と相まって、嘗ての協定価格の如く公定価格が価格低下の挺入に陥る惧があり、統制の自己崩壊が出現するのではないかと考えられる。依而この際現在の劃一的な統制方式を改め、統制を是非共必要な最少限の範囲に縮め、統制能力を重点的に集中していやしくも統制を行うものについては、どこまでも統制の実果を挙げるように努力すべきであると思料する。すなわち

(1) 統制は主食及びこれに準ずるものと鉄鋼・石炭の如き生産再建に必要な基礎資材とに限定する。